氏名	#	坪谷隆夫氏	斎藤健弥氏	荒井利治氏	荒谷美智氏	小川博巳氏	岩本多實氏	松永一郎氏	山田信行氏	橋本哲夫氏	川合將義氏	菅原剛彦氏	岸昭正氏	松岡俊司氏	馬場礎氏
計話グループ 1)対話の内容は満足の	集計	AG	CG2	MG2	CG1	MG3	MG1	CG1	MG1	CG2	CG1	EG	MG2	EG	MG3
くものでしたか?															
ても満足	_1														
る程度満足 や不満	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	
いに不満	0								'						
		阿郎先生、学生幹事の運営準備が良かった。 専攻科別のGUpingには改善の余地あり。 ゼミにもこの様な場を経験しておらず学生も	学生からの対話、意見が少なかった。 こちらからの呼びかけをしても、多少、質 問がある程度で対話には程道いと感じ	学生の専攻学科・技術を原子力で活 かすには」という問いかけに対しシニ ア側が十分回答できなかったきらい	全員が同程度に対話に参加してはい ない、という印象がありましたので・・・全 員を同程度に	原子カエ学を学んだ学生ではない が、「チャレンジ原子カ体感プログラム」 に参加して 原子カ施設の見学など	 グルーブ計論は機械学科6名とであったが、計論テーマを事前に知らされていなかった学生もいた。議論を引き出る。 	学生たちに面白かったかどうか関いたと ころ、満足しているという返答が何人か から関くことができたので。	希望したゲループではありませんでした が、それは特にかまいません。MG2のサ	講評でも述べさせて頂いたように、学 生さんが熱心な計論が出来るほど質	事前に青森地区の原子力施設を見 学していただけに、こちらの説明へ	対話が必ずしも円滑でなかった から	顧まった結果は得られなかった が、一応全員が熱心に発言して くれた。	初期の活発な話し合いにならなかっ た。	率直な話し合いができた。
		ゼミにもこの様な場を経験しておらず学生も 楽しそうに参加していた。	た。今考えると、学生はシニアの話を関	あり、各人の考え方に額待し、シニ	員を同程度に	が、「チャレンジ原子力は極密プログラム に参加して 原子力施設の見ずなし 事物の予備知識がある程度 高えられ、 対数会に臨るが多せしても合うにあり、好感が成 が対象会に臨るを提集しており、好感が成 が延勘になり、開発ニーズに明確なかが が延勘になり、開発ニーズに明確なかが 趣になった。またデェルブイル事故の衆 生原設に関しての質問があり、軽米が と比較して極疑した。	ていなかった学生もいた。議論を引き出 そうとして、用意しておいた資料(炉間	から聞くことができたので。	ブテーマ案として、①熱流体力学と原 子力、②原子力関連機器の設計や保	生さんが熱心な計論が出来るほど質 問内容に関して理解していないように 感じた。自分の意見を言わない世代な	の理解は比較的良いように思われ にた。特に、原子力業界に就職したい		くれた。		
			く会と思っていたのではないか。	アの経験を話しても参考程度で絶対 的で無いという云いかたが災いした		対話会に臨む姿勢としても自らの専門 を活かせる道を模索しており、好感がも	発の経緯、燃料サイケル、原子力技術 とその特徴、スライド4枚分)を簡単に示		子力、空原子力関連機器の設計や長 で、空原子力力連進機器の設計や長 れておかました。室ですし、されに開始する でもかったが、空にないではないでは では学生自身がまなく関いていないようなロジで、認め糸口に関切ました。そ あそう年論のデーマを決める時刻らしかった。それらなの関連がないが関密され が、あまり乗せまでぎ乗ってきない。 たが、あまり乗せまでぎ乗っていました。 あって、可は早々に切り上げました。	のかもしれない。この現象は、少子化で 無口でも何でも希望がかなっている理	という人がいて対話に対して真剣 だったこと、特に家族にそのことを説				
理由				めて無いという云いかたか良いした かもしれない。おっと、明確に方向付 けづけをした方が良かったのかとの 反省あり。		てた。対話では「設計開発への手順」 が話題になり、開発ニーズと明確なター	した。結局、計議は関修科目と原子力 技術、核融合の将来性、マスコミ報道		るつもりはありませんでしたが、(1)につい ては学生自身がまったく聞いていないよ	現で育ってきたせいかもしれない。 真面目さと真摯さは感じられたが、つわも	だったこと、特に家族にそのことを脱 明する材料をこの対話によめている ことが膨にられた。ある意味でその 期待に答えるれたと思う。(後は、そ の人の精進あるのみだが、それなり に頑張ってくれることと思う。)でも、 事物学習の別に、特に3年生という 妖難に重要な時期の割に問いかけ				
				灰色のり。		サットの設定、関係者の協調なこかは 題になった。またチェルノブイル事故の発 た体のに関しての問題がより、経点を	について行なったか、なかなか全員から の意見が出ず、全般に低調であった。		うそろ卒論のテーマを決める時期らし あるろ卒論のテーマを決める時期らし	の側いの外国労ど行米に亘って住して 行けるか不安が無いでもなかった。	前付に合えられたと思う。(後は、ぞ の人の精進あるのみだが、それなり に三球 - アノムスートしゅう \ つか				
						土が固に向じて収算した。			たが、あまり興味を示さず乗ってきませ		事前学習の割に、特に3年生という 健康に重要な時期の割に用いかけ				
									(0, cm) (0+(10))21/80C		思親会でのCG2グループ外の学生 に関いたが、今日のグループ分けを				
											聞いたのは、対話の前日だったため				
						講演・対話とも熱心に耳を傾ける態度 は極めて真摯であったが、欲を言えば	2. 全体会議では、学生が基額講演		①、②に関連し、岩木さんから、機械 情報技術学科の授業専門分野と原		に、グループで質問について話し合 うことが無かった由。確かにグルー				
						「食いつき」「問い詰め」、或いは「自分	や事後講評を熱心に聞いていたのが印象的だった。グループ発表は、学郎3年		子カ股備・装置技術との関連等につい		ブ分けは、もっと早めにあれば、もう 少し対話のためのテーマを振り下げ これもかも知れない。 たむ どのが				
						める」発言を期待したが、この点が若干 乏しかったのは残念だ。	来的たいた。ケルーク先表は、チョッキ 生が主体であることを考慮すると、まず まずであった。		て概載説明を頂いたが、具体的な質 問は無く、討議まで至りませんでした。		ループに属していても共通テーマとして原子カへの斡旋問題があった				
											少し対話のためのサーマを振り下げ られたかも知れない。ただし、どのグ ループに関していても共通サーマと して原子カへの飲意問題があった ので、質問のしようはあったと思う。 それがあれば、学生が対話をリード できたのにと思わないでもない。				
							3. 学生らは原子力を授業で学んだ		③に関連し、「日本原燃に就職にはど		できたのにと思わないでもない。				
	l						わけでなく、夏秋2回の「チャレンジ原子		(3)に関連し、「日本原想に収収にはど うしたらいいですか」、といった直載的な 質問はありましたが、こちらとしては一般 的に答えざるを得ませんでした。「核融		1				
	l						り、今回の対話も参加して話を聞くくら いの気持ちで出席していたよのと言いた		的に答えざるを得ませんでした。「核酸 合」の話や、私が自己紹介の由の経歴		1				
	l						り、今回の対話も参加して話を聞くくら いの気持ちで出席していたものと思われ た。もう少し、事前に学生に対話の趣 旨が撤廃しておればよかったと思う。		合」の話や、私が自己紹介の中の軽便 で述べた「原子力船むつ」やキャスクに 若干の興味を示したものの盛り上がる		1				
									を述べた「原子力船もつ」やキャスクに 着干の興味を示したものの盛り上がる までにはいたりませんでした。彼らは既に 「チャレンジ原子力体感ブログラム」に参						
									加し、日本原燃の訪問等、原子力の 基礎的知識はあり、エネルギー問題、						
	l								加し、日本原想の訪問等、原子力の 基礎的知識はあり、エネルギー問題、 環境問題には興味があるようでしたが、 積極的に聞く、相手から聞きだす、自		1				
									分の感想、考えを述べるといった点で、 消極的なものを感じました。私自身も、						
									今回SNWとして初参加で、至らなさを 実感しております。						
(2) 学生は熟意を持って 対話に参加していました															
とても熱心	2	1													
ある程度熱心	8			1		1		1		1	1	1	1	1	
どちらでもない あまり熱心ではない	1						ı		1						
熱心ではない	0								'						
理由					「参加している学生は熱心」だけれど も、付いて来られないか、関心がないの か、単にロ下手なのかただ黙っている学						就職のことを考えている学生は、と ても熱心だった。また、自らまとめよ うとしていた。	意思表示が必ずしも明確でな く、数意のほどを読み取れな			
	_				か、単にロ下手なのかただ黙っている学						うとしていた。	かった.			
(3)対話の会場の雰囲気 よいかがでしたか?															
良い	6	1			1	1		1			1				
ある程度良い	8		1	1			1		1	1		1	1	1	
<u>どちらでもない</u> 余り良くない	0														
良くない	0														
												少し騒然としていたから、発言 が聞き取りにくかった。			
(4)今回は学生がテーマを															
決めましたが、このテーマに ついての感想を聞かせて下	1														
いての数数を向かせて下															
非常に良い	1				1										
良い	5		4	1		-		1		1	1		-	1	
<u>どちらとも言えない</u> 余り良くない	1	 	-				1		<u> </u>		—	I			
良くない	0														
	1	 事故別のグルーピングは、原子力の分野別に比較してかなずしも活発になりにくいよう 	テーマが抽象的である。たとえば、「環	学生の主体性が何にも増して大切 だと思うから着し、学生が充分テー	再処理工場は化学工場であることから も判るように、原子力は物理・工学とい	学生にとっては就職が極めて切実な課 題であれば、それとの関連を議論した!	テーマ自体はそれはそれで良いと思う。 ただ、テーマを事前に知らされていない	:もともと対話はシニアが話したいことを テーマにするのではなく、学生たちが聞	テーマは学生たちが決めたということだ が、(1)でも述べたが、学生たちはこの	学生にとっては関心のある問題に一番 耳を傾ける傾向があり、それ以外は無	るだけに、単に原子力のことを聞くと	対話が円滑に進むかどうかは テーマにかかっている	対話の結果をまとめるのに学生 のGrリーダーが大変苦労してい		
	l	別に比較してかなずしも活象になりにくいよう であった。 2. グルーブに参加 する学生数に大きくばらつきが生じていた。	境技術と原子カ」とのサブテーマであっ たが、具体的に何を議論したいのか、 分からない。環境技術と原子力技術の	マを考えてだしていないと思えば、、 対話の中の展開でそれを引き出す	っよっに誤解されているめ面が多いの で、化学に焦点をあてたのは大変よかっ	という考えは理解できる。しかしながら、 それにしては若干値り下げが不十分と	字生もおり、討議に入りにくかった。そこ で用意していた資料や雑談を切っ掛け	きたいことを自主的にきめた方が良いか ら。	ァーマにあまり興味を示さなかったように 思う。熱・流体というのは原子力でも大	関心となることが多い。原子力を少し離れた話題からの、原子力・放射線問題	いうよりも身近に感じて対話してもら えたと思う。但し、あるグループでサ		Æ.		
理由	I		分からない。環境技術と原子力技術の 違いを議論するのか、環境技術を原子 力に生かすことが出来るのかを議論する	事を努力したい。	にCISURT。取職問題は3年の今頃 が一番よく考える時期なのではないか、	・子生につくは思想か怪のく列奏も終 整であれば、それとの関連を議論とした という考えは理解できる。しかしながら、 それにしては若干錯り下げが不十分と の印象だ。日4の3名が何れも内定済 みであるが故の、安心感がなせるところ かもしれないが・	にして、事前テーマと無関係に対話を 進めた。学生に対してテーマや対話の		が、(1)でも述べなが、学生たちはこの 足っ、除い資体というのは原子力でも大 切る要素が、学生たちがこので、 何を関きだしたいのか、反応がまった。 (国の超差でしないのか、反応がまった。 (国の超差でしないなか、 (国の超差でしないなかった。 (国の超差でしないなか。 (国の超差でしないなか。 (国の超差でしないなか。 (国の超差でしないなか。 (国の超差でしないなか。 (国の超差でしないなか。 (国の超差でしないなか。 (国の超差でしないなか。 (国の超差でしないるか。 (国の超差でしないるか。 (国の超差でしないるか。 (国の数差でしないるか。 (国の数差でしないるか。) (国の数差を) (国の数を) (国の数差を) (国の数を) (国の	へのアプローチも今後あっても良い気か する。	えたた思う。但し、あるグループでサ ブテーマで対抗が進まなかったが、 その原因としてグループ分けが遅す ぎてサブテーマにまで考えが回らな かったためと推定される。その点、も ラ少し速くグループ分けをして事前 準備があれば、もっと実のある列話 になったのにと思わないでもない。				Ì
ΨЩ	l		のか、共通点を議論するのか、学生に		てれた地別はアーマだつだと考えます。	WOOTERNA.	ドッカに Jいく飲地しくおいくはしかっ た		畑のり、飲りか次のにCい7感報をもて なかった。 ③の就活については ・物学の課題であると、ニーロ・ロー・・・・		e c ップアーマにまで考えが回らな かったためと推定される。その点、も adol ja/グェーブハムナーアー				
			尋ねてもはっきりしない。結局、シニアが 意見を述べることになり、対話にならな かった。一方的にシニアが話すだけとなっ						切美な課題であるということは理解できるが、例えば原子力産業ならどういう分 既があり、自分のもりかいまどういうこと		事情があれば、もっと実のある対話 になったのにと思わないできない				
	<u> </u>		かった。一方的にシニアが話すだけとなっ たと感じた。			ļ			なのか等を質問し、説明し、話に結び						
(5)グルーピングのやり方に ついて、希望を募って、事	1										1				
前に確認するやり方はいか	1										1				
(ア) たかつ	<u> </u>					ļ				ļ	ļ				
非常に良い 良い	10	-	4		1		,								
えい どちらとも言えない	3	 	-				<u>'</u>	<u> </u>	1	1		I		1	
余り良くない	0									<u> </u>					
良くない	0	グループに配属したシニアの専門とグループ	学生の書詞の題3001 いっパーマー	(4)と同じ。要は参加者が自分の事	原子力の中でも化学分野に関連の深	八戸工大の特性を勘案すれば、今回		☆公が開きた!\=L+用は7ド/		Gr機成は必ずしも学科単位でなくても	何事も関心があることには積極的に	学生さんの関心 n ベクトルがほ	とにかく発言する用意はあった		比較的共通の話頭が多かった。
	I	クループに配属したシニアの専門とクループ の専攻別の分け方が、必ずしも一致してなこ とを予め念頭に置いて準備することが望まし	字生の専門分野でクルーピンクすることは、妥当と思われる。日頃から一緒に いるため雰囲気は良かった。	(4)と同じ。要は参加者が自分の事 として考える事が成功に繋がる。	原子力の中でも化学分野に関連の深 いシニアが担当することになって結果的 に適切でした。	ハ戸工大の特性を耐楽すれば、今回 のGr構成は適切だったと考える。対別 の視点・話題など、散漫になるのが防		自分が関きたいことを開けるクループに 入ればそれだけ自主性が発揮されるか		Gr構成は必ずしも学科単位でなくても 良いのかもしれない。学科を越えた話し 合いの複会が少ないので、工学部内で の交流の場とするのも一案か	なるものです。多分、今回は自分の 施力に近いところを選んだことと思い	学生さんの関心 n ベクトルかは ぼ一致していたから	とにかく発言する用意はあった ように見える。		ルベの共産が活起か多かった。
	I	い。	- U-CHYSTAIL HOM SRIFT INCO			の信息・話題など、歌漫になるのかい 止出来た。		ľ	(4)でも述べたが、テーマは学生たちが	の交流の場とするのも一案か	ます。しかし、いつも一方向からだけ 見ないことも大事だといって、他のグ ループと交わることの重要性も教え				Ì
理由	l								(4)でも述べたが、テーマは学生たちが 決めたということだが、学生たちはあまり 興味を示さなかったように思う。希望を 募って、事前に確認するということ自体 はよいと思うのだが。		た方が良いと思います。(5)で述べた				
		1				I	l	l	m - c、申削に理能するということ目体 はよいと思うのだが。	1	ように学生の意思を尊重してグルー ブ分けがなされたという割に準備が				I
											フ分けかなされたという例に準備が 十分で無かったというのは、何かな という疑問が沸きます。				

(4-1-1-4)															
(6)オプショナルツアーの企															
画はいかがでしたか。(感															
想についてもお願いいたし ます。)															
非常に良い	10	1		1	1	1	1			1	1	1		1	1
良い	10	•	1		'		-	1			-		1		-
じょうしょ ララナバハ	0												-		
どちらとも言えない 余り良くない	0														
良くない	0														
K/at.	U	JNFL側の対応(事務、案内、昼食時の平田	久しぶりに大学の研究室を見学で	六ヶ所再処理の完成が遅れている	調査坑を見ることが出来たのはいろいろ	大学研究室の見学をアレンジして	原子力学科が無く、原子力関連の授	見学は八戸工大の機械技術学科の	別に報告書あり	余裕深度の調査地点が見学でき興味	六ヶ所村は、平成17年秋以来であ	マスコミ情報では判らない ガラ	余裕深度試験の状況が分かった		
		副社長の出席)は率直なこめんとをふくめすばらしかった。	き、楽しく話を聞くことができた。	事について日本原燃のトップや所員 の無いを聞く事が出来た。	な意味で大収穫でした。	頂き、感謝している。機械情報技	業も今一歩と云う、八戸工大にあって、	齋藤正博教授、電気電子システム学 私の間客座会長 バイオ環境工学科		深かった。これまでは花崗岩地帯が放射性事を始めたのでは花崗岩地帯が放	り、また、日本原燃は初めてだった	ス国化の問題がよく理解できた	のは貴重だった。		
				TOT CALLER MINES		術・齋藤研では、SCCの進展、X 線を利用した亀裂先端部の応力	「チャレンジ原子カ体感プログラム」など への参加など関連の先生方の努力に 敬意を表します。今回は当プログラム参	の村中健教授の3研究室であった。3 研究室とも教授から直接説明していた		ると思っていたが、意外なことに凝灰岩	ので、非常に興味深かった。また、 PRセンターも燃料サイクルの展示が 充実していて、日本原態では見学で	ら、先ずはJNFSさんの対応、ご 高配に感謝です。			
						変化の測定など、ユニークな研究 成果のご説明を頂いた。引っ張り	加の情報連学科以外の機械、電気、	が元至とも状ないの直接試明していた だき感謝しています。齋藤教授からはS CC研集を地道に追踪されていること		にも困難が少ないとの事、やはり机上の 学問より現場での実験が大切なことを	きなかった施設のことも分かって良	MINICIPAL CY.			
						成果のこ説明を頂いた。51つ張り 亀製の発生後には、荷重除去後	生物環境、建設などの学科の学生で あり、地元学生の原子カへの関心の	CC現象を地道に追跡されていること、 開教授からは有機液晶が低電位で鉄		学問より現場での実験が大切なことを 学ばせて頂いた。	かった。(詳細は、別の報告書あり)				
感想						の亀裂先端部応力が圧縮状態に	深さを現わしているものと理解していま まった。 学体としてけらばればらんの音	ことの様を心理に知识されていること、 関教授からは有機液晶が低電位で発 光すること、医療品への用途が考えら れることそして、村中教授からは海水中							
NEX NEX						あらどの観測結果には、日かり解 であった。知能システム・関研で は、高解像度・広い視野角を反	長と考え、対話だと理解していないもの	の極微量のトリチウム分析技術、野草 中の極微量のC14分析(自動車排が							
						は、高解像度・広い視野角を反 射光利用の液晶により達成し、喉	も多数いたのではないかと思う。子生への徹底を事前にもう少しやっておいてく								
						射元利用の液晶により速放し、味 顕部挿入検査への応用例など最 先端技術をご紹介頂いた。バイオ	れればさらに良かったと思います。	何った。いずれも地道に研究を進めてお られる様子がわかり、非常によかった							
						先端技術をご紹介頂いた。バイオ 環境工学・藤田研では、ハ戸・三									
						環境エチ・勝田切では、ハア・ニ 沢・泊沖に於ける微量トリチウム分									
(7)本学での対話は他会						W									
場と比較して非原子力系															
で比較的低学年の学生が															
中心になって参加していま															
すが、そのことについて何か															
感じますか?															
大変良い	2					1									1
良い	7	1	1		1			1	1	1	1				
何とも感じない	1											1			
参加者に幅を持たせるべ	1													1	
	Ī			比較的低学年だった事は指導の先 生方お影響が当然より強く出て、学		「チャレンジ原子カ体感プログラム」に参 加すること自体が、学生の自主性を引	原子力学科が無く、原子力関連の授		われわれのグループは83の6名で構成されていた。それ自体はよいと思うのだ		物が多いせいか むやるのまにとっ	臨機応変の対応可能			学生の真摯な姿勢
				生達もやや緊張し、自由関連さが少		き出し、その延長線上での対話会ゆ え、大いに結構がと考える。	業も今一歩と云う、八戸工大にあって、 「チャレンジ原子力体感プログラム」など		が、議論が活発化するためには参加者 に幅を持たせいろいろな意見を聞いた ほうがよいかとも思える。		て連和感がなく、原子カへの就職希 望者もいたので、対話はスムースに 行きました。				が印象的だった
				なかったように感じた。非原子カ系 の学生は率直に原子力をどう見てい		A. AULMMCC-9A9	への参加など関連の先生方の努力に 敬意を表します。今回は当プログラム参 加の情報選挙料以外の機械、雷気。		ほうがよいかとも思える。		行きました。				
				るかを示してくれ参考になった。			加の情報連学科以外の機械、電気、 生物環境 確認力との学科の学生で								
理由							出の情報建子件以下の機構、電気、 生物環境、建設などの学科の学生で あり、地元学生の原子カへの関心の 深さを現わしているものと理解していま								
							求さを見わしているものと理解していま す。ただ、学生としては当プログラムの延								
							す。ただ、学生としては当プログラムの延 長と考え、対話だと理解していないもの も多数いたのではないかと思う。学生へ								
							の徹底を事前にもう少しやっておいてく れればさらに良かったと思います。								
(8)来年度, 八戸工大で	-						HHIMCOLDAYACEBURY.								
シニアとの対話があった際															
こ、参加されたいと思いま															
まだ話し足りないので 参	4				1		1		1			1			
まだ話し足りないので、参 十分話出来たからもういし	1				'									1	
2度も必要ない	0													·	
-12 0.2 3.7 0.1		大学側の参加者は毎年原則として新人となる					福井工大在職時に原子力技術応用	学生は毎年入れ替わるので十分に話		チャンスがあれば何処でも出かけること	学生相手の場合、常に新しい人と向	来年度の学生と対話したいから	東北地域の活動なのでSNW東北の		
		ので新たな気持ちで参加したい。					工学科を新設した経験から、八戸工 大は、青森県と云う原子カ県内にあ	ゲできるのはその時の学生だけである。 対話は何回参加しても新たな発見が		は結構であり、多様な経験が出来ればよいと思います。	き合うし、社会情勢によって相手の 反応が変わってきます。いつも清新 な気持ちで参加したいです。		メンバーとして参加したいと考 えている。		
その他御意見							り、事業者の地元採用の要請を満たす	ある。したがって機会と状況が許せば参 加したい。			な気持ちで参加したいです。				
との旧呼応先							ために、少しでも綺真で勉学好きの学 生を育成してほしいから。学内に原子	20000							
							力学科が出来、現場向きの原子力技 術者の育成が出来れば最高ですが。								
 							出来るだけ参加したいと思います。								
(A) + A = + 1 = - A + 1		阿然牛牛のお狂の様に学牛の穀跡期間とや	学生が受けるで せっかくの場合をもっ		香香味の工業総本である八百の工業	会後のどびえて計会では これまでに	音原表示の補助手段としての 室座	ハ戸工士における対話会け会ロアル	SNWの学生との対抗集会に付加めて	対抗集会でも何の会でも終わったねと	☆回は これまでの対狂のキャーフ	伊藤さんのご祭力 JMFSキム・ゴ	今回基本議論を行った小川博巳	메上咸和大士!	
(9)本企画を通して全体		阿即先生のお話の様に子生の収録問題と次 世代への知識の継承の重要性、学生に夢を もたせる意味でも核融合研究や新原子力研	子生が受け得で、ぜつかくの機関をもつ と您を持ってシニアに食い下がって、議 論して欲しいと感じたが無理な話である		大学でこのようなシニアとの対話集会が	上に高いコミュニケーション能力が要求	なIT技術の習得も大切だが、それ以	度目であり、そのうち昨年を除く3回参	参加させていただき、たいへん勉強にな	に楽しかったとの印象が残ることが大切	となった原子力の技術、安全性、倫	高配で有意義な対話とツアー	今回基本講演を行った小川博じ 氏のレクチャーは大変分かり易 く、使ったPPTも話し方も素晴	別に感想文有り	
の感想や学生への意見 などがあればご自由に		究の重要性の指摘は筆者の想いと一致する	うか。(担当グルーブは3年生)		MDTICことは大変意深い。、後になっ てみるほど、学生にプラスになるのでは	今後のビジネス社会では、これまで以 上に高いコミニケーション能力が要求 される。株にビジネスがグローバル代する 近来来では、その傾向は必至こ予整さ れる。新経法等とは、一部一分には身 に付かぬので、学生時代から思慮的な 数様を開始、継続する努力が正常と観光が だ、例ば、新聞のトラブ記事を削続が 近月では、新聞のトラブ記事を削続が 記録した。アルロする目的、お知っ	別に何をアッピールするのか、日頃 から 己の考え・主張を整理すること	加している。参加する学生も原子力 チャレンジ体感プログラムによる講習を	リホレに。たた、対陆内容については自 分の至らなさも含めて不本意な点もあ	じめる。 特に、年代の道った世代間の 対話ではどちらかと言えば、年長者のグ	理でなく、原子力業界での技術の活 用とか、原子力業界での女性技術者	たったことに先す感謝します。 学生さんには気力、気迫、体力	く、使ったPPTも話し方も素晴 としかった。伊生様では呼に強		
などかあればこ自由に		ものであった。	CG1クルーフの感想 パルニプ級車で「生物に分する物料		ないか。私自身にとっても八戸で学ぶて大牛の帰人かと話し会えたことは常	れる。明確な発言・論旨の整理・説得 カある既は第カは 一朝一々には身	をお勧めしたい。	全員受けてきており、2回に分けて東通の原子力を常所、大ヶ所裏処理工	りましたが、今後生かされるものと期待	ループがイニシャチブを取りがちであり、 勢い人のグループは何も得るものがなり。	のことを代表とされる原子力の労務環境が問われました。こうしたテーマ	の面で一層の鍛錬を期待しま す その音味でもシニアとのな	らしかった。学生諸君は既に講 義でも、現場見学でも原子力施		
お書きください。			線の影響はない」との発表には、驚い		要体験。女性もしっかりしていて安心	に付かぬので、学生時代から意識的な		場、大間発電所建設現場、むつ市中	******	に終わることも考えられる。時間の無駄	なら、就職先としての疑問も多かろう	流は有意義だと思います。結果	設について既にある程度学習を 済ませていることもあり、小川		
1			線の影響はない」との発表には、驚い た。対話では、低レベルの放射線の影響について、環境研のねずみを使った実		メージと全く違った堅実な態度で触学し	力ある低法等々は、一部一クには身 に付かぬので、生物性から変異的な 設験を開始し、根核する努力が必要材 対して、これに対する評論・批判・自 記主、様などを、開始などによなかる別 様は、特定を得た話題を取り上げ・視 野を広げ、思考別線としても簡単な大手 定まかる別様は、特定を実在が思 取り上げ・視野を広げ、思考別線として も、大・いに、日、動 の か の も		同貯敷施設税場を見字してきているこ のことであった。 CG2グループは全員3年生であり、生		が重要となるだろう。	待したのですが。 結局、シニアから	した。	氏の言わんとする主旨は禁事に		
1			験や、ホルミシスの話、南部と津軽の大 地からの放射線の違いや、再処理工 場の放出する放射線の話、放射線の		ていることに本当に安堵しました。それに優しい。身体障害のある学生が一人い	料として、これに対する評論・批判・自 己主張などを、簡単なメモにまとめる別		CG2グルーブは全員3年生であり、生物化学専攻であった。印象としては、学		か里安となるにつう。 特に、年代の違った世代間の対話で はどちらかと言えば、年長者のブルーブ がイニシャチブを取りがちであり、若い人	の発言が多く、もっと食い下がって 欲しかったなという思いが残りまし		も十分に伝わったと思われる。		
1			場の放出する放射線の話、放射線の		ましたが、懇親会のときなど、とても優し	練は、時宜を得た話題を取り上げ・視		物化学専攻であった。印象としては、学生が非常に続いて表面ではあるがロ		がイニシャチブを取りがちであり、着い人	た。特に、適慮がちな東北の人に		1		
1			物の放出するなお様の していた可能であることもほしたが、その 結果が、「生物に対する放射線の影響 はないとまとめられたことは、シニアの脱 明が十分に伝わっていなことである。 また、発表に当たって、発表者と学生メ		徒が少しおとなしいように感じました。こ	streum・必有訓練としても簡単なメモ にまとめる訓練は、時宜を得た話題を		が重く、一部の学生を別として発言が 少なかったことが気になった。このような 対話には日ごろから慣れていないせい		のグループは何も得るものがなしに終わることも考えられる。時間の無駄使いにならないように、プログラムすることが重要となるだろう。	は、センジレ時間かいののかも知れ ません。それだけに(シニアに直接				
1			はない」とまとめられたことは、シニアの説明が十分に伝わっていなことである。		れは最近の一般的けいkうですが・・・	取り上げ・視野を広げ・思考訓練として も 大 い に お 勧 め で き る		対話には日ごろから慣れていないせいか、自分たちから積極的にほしてくると		ならないように、プログラムすることが重 薬となるだろう。	出さなくても良いから) 質問の事前ア ンケートとグループメンバーでの誰				
1			また、発表に当たって、発表者と学生メ		l	も大いにお勧めできる。 語学の勉強が伴えば、鬼に金棒だ。。		か、自分たちから積極的に話してくると いうことはあまりしないのだろう。対話の テーマが「化学技術と原子力」「原子力			ンケートとグループメンバーでの議 論といった準備が欲しいなと思って います。		1		
1			ンパーのみの時間を取り、シニアは席を はずした。(学生同士で話しやすくする					ァーマか! 化学技術と原子カ」! 原子カ 産業への就職」「女性技術者と原子 カ」と具体性を欠いていたので、その場			U.R.Y.				
1								カ」と具体性を欠いていたので、その場で質問しにくかったのかもしれない。 依							
			見ていない。これが裏目に出たと感じた。どこまで、シニアが介入すべきか考えさせられた。 しかし、発表後の質問					で質問しにくかったのかもしれない。他 大学でやっているように、事前に参加者 からシニアに対する質問を提出しても							
1			で、「生物に対する放射線の影響はな					ゲッノーアに対する共同で採用しても らっておくのがよいだろう。景気の悪化に							
			で、「生物に対する放射線の影響はない」は「間違いである」との指摘があり、 これが一番の成果かもしれない。		l			らっておくのがよいだろう。景気の悪化に 伴い、就職状況が急適にわるくなり、就 職について聞きたい気持ちは分からな					1		
1								いではないが、最終的には総合的な本人の能力を高めるしかないという平凡な							
1								人の能力を向めらしかないていつギバな 話をした。 なお、 いずれ就職活動で面接試験があるだろ							
								いずれ既復活動で面接試験があるだろうが、その時のトレーニングとしての意味							
1								うが、その時のトレーニングとしての意味 合いもシニアとの対話会にはあるのでは カいかという解析した。カカー会の対野							
l l					1			会が実施されたメディアセンターは昨秋					1		
1								はいかという気がした。なお、今回対話 ないかという気がした。なお、今回対話 会が実施されたメディアセンターは許秋 光成したばかりのものということであった。 今回の対話会にはぴったりとしており、 気持ちよく対話できた。また、相変わら							
1															
1								すらかた土、無線光土の向到など中 備と、幹事学生の行き届いた進行に感 心させられました。							
								いてどかはひた。							